

・2020 SDGs 東京五輪「持続可能性運営計画第2版」公開ブリーフィング

東京五輪における持続可能施策の提言に向けて、2017年9月14日に学識経験者・NPO法人・民間企業等による公開ブリーフィングが行われました。

冒頭に「新ビジョン 2050」の著者であり、東京2020大会組織委員会・街づくり持続可能性委員会の委員長である小宮山宏氏より、東京2020大会は日本が世界へ「21世紀の持続社会像」を見せる絶好の機会であり、その象徴的なプロジェクトの一つとして、競技場を都市鉱山からの鉄スクラップで製造した鋼材で作ること、電力を福島、東北からの再生可能エネルギーで賄うことなどが提唱されました。

続いて当社代表取締役社長 西本利一より「資源循環」「低炭素化」と題して、日本における鉄鋼業界のCO₂発生量の現状と、2050年CO₂ マイナス80%に向けた電炉鋼材の可能性について説明しました。そして東京都の「環境物品調達方針」に関するチェックリストの意義と東京五輪への導入による効果について提言しました。

最後に東京都知事 小池百合子氏より、「東京都の持続可能性に関する取組について」の報告と総括があり、報道関係者も含めて200名を超える大勢の参加者のもと大盛況のうちに閉幕しました。



(写真提供 株式会社産業新聞社 9月14日)

(写真 左から東京2020大会組織委員会・街づくり持続可能性委員会委員長 小宮山宏氏、
中：当社代表取締役社長 西本利一、右：東京都知事 小池百合子氏)